

平成26年度 学校総合評価

学校経営計画1～5に基づいた教育活動についての評価は、以下のとおりである。

6 今年度の重点課題に対する総合評価

学校の現状と課題を踏まえて、重点課題として4項目を取り上げた。目標達成に向けて、当該分掌部が中心となり全教職員の共通理解を図りながら取り組み、評価は以下のとおりである。

- ① 児童生徒の夢や希望を大切に授業づくり ―学部をつなぐ指導として―
児童生徒の「生きがい」「やりがい」「主体性」を育てる視点から、「夢や希望」を授業の目標や活動に反映できるような授業づくりを進め、年間指導計画の目標・内容等の見直しに取り組んだ。各学部の主な取組として、生活単元学習で取り上げた目標をさらに深めるためにその後の単元でも同様の内容等を取り入れたり、次の単元にも関連づけて行えるよう年間の単元配列を見直したり、社会科の単元では、生徒の夢や希望に基づいて卒業後の生活に直結する学習内容を精選したり、他教科でも関連する内容を並行して進めることができるよう単元の実施時期を見直したりした。また、各学部一週間ずつ公開する「互見授業週間」を実施したり、長期休業時に授業ビデオ上映等を行ったりして、小・中・高12年間を「つなぐ」指導の充実に努めた。
- ② 食に関する指導の充実 ―学校給食を通して―
健康な体づくりや食事のマナーを身に付けるため、学校栄養職員と連携した食育の指導や家庭と連携した「給食マナーアップ週間」の取組を行った。食育の指導では、学校栄養職員が給食時に教室を回って児童生徒に直接指導したり、学校栄養職員の協力を得てバランスのよい食事の摂り方や栄養について指導する機会を設けたりして、年齢に応じた段階的な指導を行うことができた。また、「給食マナーアップ週間」の取組では、各学級でそれぞれの実態に応じた目標を設定して取り組み、がんばり表を家庭とやりとりするなどして共通理解を図りながら効果的に指導を進めることができた。
- ③ 進路支援のための適切な情報提供
進路に関する学習会を、新規9回を含め年間26回実施した。高等部保護者を対象に「高等部保護者学習会」「高3進路学習会」を実施したほか、全保護者対象に「インターンシップ推進委員会」「先輩こんにちは」等、進路関係行事を公開した。小・中学部教員を対象に事業所見学を実施したほか、中学部3年、高等部、寄宿舎、初任教員等を対象にそれぞれ学習会を実施し、本校の進路支援や進路先等に関する情報を提供し、理解を深めた。また、保護者への進路情報の提供では、進路だよりを年間4回発行し、各進路学習会の内容や就業体験の様子のほか、新規事業所の紹介などニーズに応じた情報提供に努めた。今年度からホームページにも進路コーナーを開設し、保護者が情報を得る機会を増やすことができた。
- ④ 共生を目指した部活動の充実
卓球部とサッカー部は、夏季休業中に他の特別支援学校と交流した。卓球部は4校が参加する北ろう体親善交流卓球大会に参加し、基礎練習や技能レベルに応じたグループに分かれて試合を行った。また、サッカー部は、2校合同トレーニングやサロンサッカーの試合を行った。それぞれに練習の合間や試合後に互いの学校のことを話したり健闘をたたえ合ったりする姿が見られた。また、和太鼓部では、外部講師を招聘して実技講習会を年間12回実施した。回数が増えたことで基本動作の習得に向上が見られ、生徒の活動への意欲をさらに高めることができた。

7 次年度へ向けた課題と方策

- ① 児童生徒一人一人の願いを大切にしながら、互見授業などの機会を拡充して各学部間のさらなる連携を図り、「キャリア発達」の視点に基づいた授業づくりの充実に努める。
- ② 児童生徒の健康な体作りとよりよい食生活の習慣を育てるために、家庭と連携した食に関する指導を今後も継続して行う。
- ③ 保護者が得たい進路情報の把握に努め、ニーズに応じた情報提供の機会の設定と、進路だよりやホームページの進路コーナーの充実に努める。
- ④ 現在の交流を継続しさらに交流先の拡大を図る。部活動の講師招聘については、他部への導入を検討する。

8 学校アクションプラン

平成26年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 -					
重点項目	学習活動				
重点課題	児童生徒の夢や希望を大切にしたい授業づくり～学部をつなぐ指導として～				
現 状	<p>昨年度まで学校課題研究として、キャリア発達を促す視点を具体化し、「将来設計能力」（「生きがい」「やりがい」「主体性」）の観点から社会参加につながる授業づくりを進めたことで、次の三点で成果が見られた。①遊びの指導、生活単元学習、作業学習等の指導内容・目標の見直しが見直しができた。②児童生徒の主体的、意欲的に活動する姿が見られた。③各学部の指導内容や指導目標を小・中・高につなぐ重要性が分かった。</p> <p>また、小・中・高等部の連携のため各学部で互見授業や意見交換会を行い、授業改善や「将来設計能力」について話し合い、情報交換を行ったことで、他学部の児童生徒の目標達成までの姿や入学から卒業までの成長の過程を確認し合うことができた。課題として、①児童生徒の「夢や希望」を大切にしたい指導目標や指導内容に反映していく必要性、②互見授業や意見交換会などの取組を継続して行い、小・中・高12年間を念頭においた「つなぐ」指導の充実を図る必要性が挙げられた。</p> <p>そこで、今年度は、さらなる児童生徒の社会参加・自立を目指すため、キャリア発達の視点の一つ「将来設計能力」の要素である児童生徒の「夢や希望」をもとに、社会参加につながる授業づくりを見直すことにした。</p>				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>年間指導計画（指導内容・目標等）を見直し教科、教科等に反映する。</td> <td>互見授業（互見授業週間、研究授業互見など）を行う。</td> </tr> <tr> <td>各学部3か所以上</td> <td>全教員一人につき、他学部の互見2回以上</td> </tr> </table>	年間指導計画（指導内容・目標等）を見直し教科、教科等に反映する。	互見授業（互見授業週間、研究授業互見など）を行う。	各学部3か所以上	全教員一人につき、他学部の互見2回以上
年間指導計画（指導内容・目標等）を見直し教科、教科等に反映する。	互見授業（互見授業週間、研究授業互見など）を行う。				
各学部3か所以上	全教員一人につき、他学部の互見2回以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や希望」を大切にしたい指導内容・目標等の設定方法を共通理解する。 ・「夢や希望」を大切にしたい互見授業を3回以上行う。 ・互見授業や協議会で、小・中・高12年間を見据えた指導内容・目標について協議する。 ・「夢や希望」を大切にしたい授業づくりから、年間指導計画（指導内容・目標等）を見直す。 				
達成度	<table border="1"> <tr> <td>各学部3か所以上実施 小5か所、中5か所、高6か所</td> <td>全教員一人につき、他学部の互見2回以上の達成率 55%</td> </tr> </table>	各学部3か所以上実施 小5か所、中5か所、高6か所	全教員一人につき、他学部の互見2回以上の達成率 55%		
各学部3か所以上実施 小5か所、中5か所、高6か所	全教員一人につき、他学部の互見2回以上の達成率 55%				
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や希望」を大切にしたい授業づくりから、各学部において年間指導計画（指導内容・目標等）の見直しした主なものは以下のとおりである。 （小学部1年）生活単元学習「動物園に行こう」で「動物に関心をもち自ら関わること」に重点を置いたが、さらに深めたいと考え、生活単元学習「公園へ行こう」でも同様な内容・目標を取り入れた。 （中学部2年）生活単元学習「公共交通機関について調べよう」を行ったが、この単元と関連の深い、生活単元学習「富山県の特徴を調べよう」を連続し、関連づけて行えるように年間の単元の順番を一部変更したいと考えている。 （高等部3年）社会科「経済の仕組み」では、生徒の実態や、夢や希望に基づく卒業後の生活を考慮し、生活にかかるお金や給料、貯蓄など生活に直結する学習内容に精選した。また関連する数学科の単元を並行して行えるように、実施時期を見直した。 小・中学部は5か所、高等部は6か所、教科、教科等の年間指導計画の指導内容・指導目標等を見直すことができた。 ・各学部1週間ずつ授業を公開する「互見授業週間」を行った。また、各学部につき4回の、授業研究会の授業ビデオを放映し他学部の授業を視聴する機会を設けた。 				
評 価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画（指導内容・目標等）を見直し教科、教科等に反映するか所、各学部3か所以上の目標に対して、各学部目標の3か所以上見直すことができた。 ・全教員一人につき、他学部の互見2回以上の達成率は、2回以上の達成率55%（1回以上、80% VTRでの視聴含む）で全員が他学部の互見2回以上には至らなかった。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画（指導内容・目標等）を見直し教科、教科等に反映するか所、各学部3か所以上の目標に対して、各学部目標の3か所以上見直すことができた。 ・全教員一人につき、他学部の互見2回以上の達成率は、2回以上の達成率55%（1回以上、80% VTRでの視聴含む）で全員が他学部の互見2回以上には至らなかった。 		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画（指導内容・目標等）を見直し教科、教科等に反映するか所、各学部3か所以上の目標に対して、各学部目標の3か所以上見直すことができた。 ・全教員一人につき、他学部の互見2回以上の達成率は、2回以上の達成率55%（1回以上、80% VTRでの視聴含む）で全員が他学部の互見2回以上には至らなかった。 				
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業は、一貫した教育を行うために大切である。 ・夢や希望を考えることで、児童生徒は自己を見つめる機会に、教職員は児童生徒を見つめる機会になっている。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢や希望」を大切にしたい指導内容・目標の設定方法を学部や学年で共通理解することを継続して行い、社会参加につながる授業づくりを充実させる。 ・他学部の互見機会を増やす方法を考えて、さらなる縦の連携を図る必要がある。 				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 給食指導の充実	
重点課題	食に関する指導の充実 -学校給食を通して-	
現 状	<p>昨年度本校では、保護者を対象に食に関するアンケートを実施した。</p> <p>アンケート結果から、本校の児童生徒には偏食が多く、よく噛まないことや早食いすることなどを保護者が困っていることがわかった。また、給食の様子からは、食べこぼしが多い、交互に食べない、食器を持って食べない、箸を握ったまま牛乳パックを持って飲むなど食事のマナーの面で指導の必要性を感じる児童生徒が多いことも分かった。</p> <p>卒業後、社会人として健康な就労生活を送るためには丈夫な体を作る必要があり、そのためには、バランスのよい食事が必要な栄養を摂取するようにしなければならない。また、人前で恥ずかしくない食べ方をすることも社会人として必要になってくる。このため、マナーを守り、バランスのよい食事を摂ることができるよう、年齢に応じた段階的な学習を行い、家庭と連携して指導を進めていく必要がある。</p>	
達成目標	学校栄養職員と連携した食育の指導を行う。	「給食マナーアップ週間」を設け、マナーについての便りを発行する。
	各学年1回以上	年2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校栄養職員と連携して、年齢や実態に合わせ、パネルシアターやビデオなどの教材を使った食育指導を行う。 ・委員会活動を通して食事のマナーについての啓発を行う。 ・「給食マナーアップ週間」を6月と11月に設け、保護者向けの食事のマナーについての便りを発行し、家庭と連携した指導を行う。 ・給食時にマナーの指導を随時行う。 	
達 成 度	食育の指導を各学年1回以上実施した。	給食マナーアップ週間を2回設け、終了後それぞれ給食だより臨時号を発行した。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等部の全学年において、食育の授業に取り組むことができた。半数の学年で学校栄養職員が授業に参加し、直接指導をしてもらった。授業をするにあたり、資料を提供してもらうなどの連携もできた。また、学校栄養職員が給食時に教室を訪問し、児童生徒に直接指導をすることもあった。 ・小学部では夏季休業前に、家庭における過ごし方や食事の摂り方などについて食育を交えて話をしたり、好き嫌いや食事のマナーについての授業を行ったりした。中・高等部ではバランスのよい食事の摂り方や栄養についての学習を行い、学校栄養職員から話をしてもらった学年もあった。 ・「給食マナーアップ週間」を6月と11月に実施した。「よく噛んで食べる」「食器に手を添えて食べる」「ひじをつかないで食べる」など、児童生徒の実態に合わせた目標を設定して取り組んだ。事後に持ち帰ったがんばり表には「家で足をそろえて食べるようになった」「牛乳1本飲めるようになった」などの保護者の感想があり、家庭でのマナーアップにつながる事例も見られた。 	
評 価	A	<p>全学年において食育の授業をすることができ、半数の学年で学校栄養職員による直接指導を実施した。</p> <p>給食マナーアップ週間中は、それぞれの実態に応じた目標を設定して取り組むことができ、それを通信で家庭に知らせることにより共通理解を図ることができた。以上のことから評価をAとした。</p>
学校評議員の意見	とてもよい取組だと思う。箸の持ち方が上手になると、食べこぼしも少なくなる。小学部で身に付いたものは、ずっとその後の生活に生かされる。家庭と学校が連携してこれからの指導に取り組んでほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の指導に関しては、今後も学校栄養職員と連携しながら、子どもたちの健康づくりと食習慣の確立を目指し、指導を継続して行う。 ・給食マナーアップに関しては、「マナーアップ週間」だけではなく、家庭と連携した指導を継続し、児童生徒の実態に合わせた目標を設定して取り組む。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	進路支援のための適切な情報提供	
現 状	<p>昨年度、進路について学ぶ機会として、教員対象には、福祉事業所の体験会や外部の専門家を招いた2回の研修会を行った。また、生徒や保護者対象には、卒業生等を招き「先輩こんにちは」を2回、企業就労希望者向けの進路学習会を各学年1回行った。保護者にはこの他に、就業体験報告会やインターンシップ推進委員会の公開や福祉事業所や企業への見学会など、情報提供や研修の機会を増やした。</p> <p>しかし、多くの研修の機会を設定しているにも関わらず、教員や保護者アンケートでは進路に関する情報提供の項目が不十分である、効果的に活用されていないなど評価が低かった。そこで、今年度は、学ぶ機会を設定するだけでなく、研修内容をより効果的に多くの保護者や教員に伝えるために、学部会、学年懇談会、進路だよりやホームページ等を通して、情報を効果的に伝える工夫を行い、進路支援の充実を図りたい。</p>	
達成目標	教員、保護者に対して機会をとらえた進路に関する学習機会の設定	進路情報提供の充実
	・年5回以上	<ul style="list-style-type: none"> ・進路便り年間4回 ・ホームページの進路情報コーナーの充実
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学部会等を利用した教員の進路情報講習を行う。 ・学年懇談会などでの保護者に対する進路情報講習を行う。 ・進路に関わる行事や学習会を、保護者や他学部の教員にも公開する。 ・教員対象の福祉事業所等の体験会を行う。 ・進路便りの増版やホームページの進路情報コーナーの内容を検討し更新回数を増やすことで、進路に関する行事や学習会の研修内容、新規の事業所や福祉制度等についての情報をわかりやすく伝えられるようにする。 	
達成度	・新規年9回、(年26回実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路便りを年間4回発行 ・ホームページに進路コーナーを開設
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、保護者に対して進路に関する学習会等の実施。※下線部新規 <p><教員や寄宿舎指導員対象> (中学部3年学年会、<u>高等部学部会</u>、<u>進路支援部会</u>、<u>寄宿舎部会</u>、初任者研修会：計5回(内新規4回))</p> <p>進路主任、副主任が、本校の進路支援や進路先について情報提供や共通理解を図った。</p> <p><小・中学部の教員対象> (福祉事業所等体験：7事業所計11回)</p> <p>事業所等体験で、小・中学部段階での将来を意識した支援について気付く機会とした。</p> <p><保護者対象> ※②については、小・中学部教員も対象</p> <p>① 進路に関する研修会 (進路主任、副主任による<u>高等部学年進路説明会</u>：各学年1回) (外部講師による「<u>高等部保護者学習会</u>」、「<u>高3進路学習会</u>」：計5回(内新規5回))</p> <p>②進路関係行事の公開 (「就業体験報告会」「先輩こんにちは」：各2回、「第2回インターンシップ推進委員会」：計5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報提供の充実 <p><進路便りを3回から4回に増版>進路に関する行事や学習会の内容に加え、新規事業所等の情報を伝えた。</p> <p><ホームページ進路コーナー新設>進路便り等の情報を進路コーナーにアップした。</p>	
評 価	B	教員、保護者に対して機会をとらえた進路に関する学習機会の設定については年間26回新規9回行った。また、進路情報提供の充実では、進路便りを年間4回発行、ホームページに進路コーナーを開設した。保護者と教員双方が共に学ぶ機会、情報共有の内容方法等に進展があったがさらに充実を図る必要がある。
学校評議員の意見	情報提供の機会を増やすだけでなく、保護者のニーズを探ることが必要ではないか。また、最近新規事業所の設立が増えている。各々の事業所の支援内容を見極め情報提供をしていくことも必要である。	
次年度へ向けての課題	教員、保護者の進路に関するニーズを探り、ニーズに応じた進路学習会を開催したり進路便りやホームページ進路コーナーの充実を図ったりするなど進路情報の提供を工夫し、一人一人に合わせた進路支援に生かしていくことが必要である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動 部活動	
重点課題	共生を目指した部活動の充実	
現 状	卒業後の社会参加・自立を旨として、向上心をもって物事に取り組む姿勢や、様々な場面でのコミュニケーション能力の育成が必要である。また、地域で生活していくためには、障害のある生徒や社会人のみならず、中学校や高校、他団体と積極的に交流を行い、豊かな人間性を育てる必要がある。	
達成目標	他校、他団体との交流回数	技術の習得を目指した外部講師の招聘
	陸上、サッカー、卓球部等は年1回以上実施	希望する部に年3回実施
方 策	土日の休業日や、夏期休業中に、合同練習会や練習試合を実施する。	部活動実施日に外部講師を招き、実技講習会を実施する。
達 成 度	サッカー部年1回、卓球部年1回実施	和太鼓部において実技講習会年12回実施
具体的な取組状況	<p>・卓球部、サッカー部において他校と交流した。</p> <p>卓球部は、夏期休業中に実施された北ろう体親善交流卓球大会に参加。特別支援学校4校と交流した。交流会の中で基礎練習や、技能レベルに応じたグループに分かれての試合を行った。練習の合間や終了後に、生徒たちが学校の様子を話したり、試合後にお互いの健闘をたたえ握手をしたりするなど、関わる場面が見られた。</p> <p>サッカー部は、富山高等支援学校と交流。合同トレーニングやサロンサッカーの試合をした。試合後、両校の生徒から「大変楽しかった。」「また、試合をしたい。」などの感想が聞かれた。</p> <p>・和太鼓部において、毎月1回、外部講師を招き、実技講習会を年12回実施した。講師から正しいばちの持ち方や打ち方等の基本動作を教えてもらったり、講師の横笛に合わせて太鼓を打ったりした。リズムに合わせて演奏ができるようになるなど技術面の向上が見られた。</p>	
評 価	B	<p>・サッカー、卓球部は、年1回他校との交流により、生徒同士の関わりを深めることができた。また、サッカー部の生徒は、交流後、合同トレーニングや試合で学んだことを生かしたいと、課題意識をもって、日頃の部活動に参加する姿が見られるようになった。しかし、陸上部は他校との調整がつかず交流を行うことができなかった。</p> <p>・外部講師による実技講習会を和太鼓部において年12回実施したことにより生徒の練習への意欲は昨年度より高まり、基本動作の習得に向上がみられた。以上のことから評価はBとした。</p>
学校評議員の意見	<p>・和太鼓部に外部講師を招き、学習発表会等で成果を発表できたことは良かった。陸上は個人競技で交流は難しいと思われる。無理をしなくてもよい。チーム性のある卓球などは交流により技術や社会性を高めることが期待できる。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>・今年度のサッカー部の活動は、地域共生を目指した積極的な交流の推進のための第一歩として意義のあるものになった。来年度以降も継続でしていきたい。陸上部については個人競技という面から考えると、交流以外の取組による充実を図る必要があると考えられる。</p> <p>・外部講師招聘は、来年度以降は他の希望する部においても導入を検討する。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)